

旧村川別荘だより

147号



令和元年6月17日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
 歴史文化財担当：斉藤、海老原、手嶋、今野
 〒270-1166
 我孫子市我孫子1684番地
 TEL:04-7185-1583(直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

6月の月例会が開催されました

6月1日(土)に月例会が開催されました。7日には梅雨入りが発表され、雨の多い季節となります。雨の旧村川別荘も風情があって素晴らしいですが、ぬかるみなどもありますので、足元にはお気をつけてご来荘ください(*^-^*)

杉村楚人冠記念館展示

「てがみ展 お悔やみのてがみ」について

今回の月例会では、7月7日まで開催される杉村楚人冠記念館のテーマ展示について、高木学芸員よりお話いただきました。

●お悔やみのてがみについて

この時代は弔電の習慣もなく、お悔やみといえば手紙を送ることが主流でした。定型の構成はありますが、比較的アレンジをきかせて自分らしさを出している手紙も多かったようです。

楚人冠には8人の子どもがいましたが、そのうち5人が若くして亡くなっています。

今回は長男・浩が死亡した際のお悔やみの手紙7通、次男・二郎、三男・時雄が死亡した際、海外から寄せられた手紙3通を展示しています。

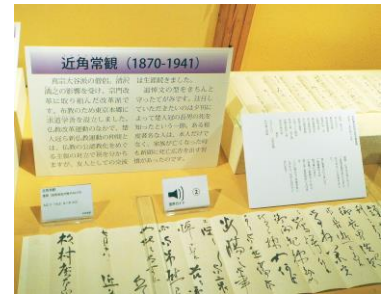
◎長男・浩のお悔やみの手紙

浩は慶応大学の学生でしたが、肺結核にかかり、大学を辞めて療養に専念したものの回復は叶わず、大正11年に20歳で亡くなりました。

①貴族院議員の坪井九八郎は、楚人冠が第一次世界大戦の取材を終え、アメリカ経由で日本に帰る際、サンフランシスコからの船で一緒になりました。坪井の手紙は文語体で書かれており、初めに子どもが亡くなったことを知り、驚き、次に相手への思いやりと自分の悲しみを表わし、最後に締め言葉で結ぶという非常にオーソドックスな、お悔やみ文の定型のような文章です。

②近角常観の手紙も、基本的には定型文に近いものです。近角は浄土真宗の僧侶で、楚人冠とは20歳ごろからの付き合いです。

坪井の手紙と異なるのは、夕刊によって浩の死を知ったと書かれていたことです。当時は連絡手段が限られていたため、夕刊の死亡広告欄を確認することで、お悔やみを言うべき人の情報を知ることができたのです。



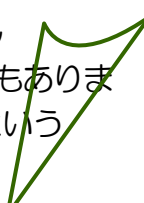
③教育者・仏教学者の高楠順次郎からの手紙です。彼は歌人ではありませんが、この手紙には、和歌が2首添えられています。恐らく高楠も子どもを亡くしたことがあったので、1首目は子どもを亡くしたことについて、2首目は仏教的な世界観での慰めをうたっています。

④寒川陽光は正岡子規の弟子で、文面から2人の共通の友人も春に娘を亡くしていることがわかります。文中で「逆縁ばかりいやなもの」とありますが、逆縁とは子どもが先に亡くなってしまふことで、当時は子どもが亡くなることが多くありました。楚人冠の子どもを見ても(前述)それがわかります。

⑤下村宏は、ペンネームを海南といい、官僚から朝日新聞の経営者になった人物で、楚人冠と非常に仲の良い友人でした。

彼は歌人でもあり、手紙のメインは2首の和歌です。和歌で弔意を示すことは今ではあまりありませんが、当時は普通に行われていました。

⑥仏教学者の境野黄洋は、楚人冠とは新仏教運動からの仲間であり、今回の展示の中では唯一、口語体で書いたお悔やみの手紙を送りました。当時、お悔やみなどでは文語体が使われることが多く、口語で書かれることはあまりありませんでした。楚人冠と親しい仲であったこともありますが、このころから少しずつお悔やみというフォーマルな場面でも口語が使われ

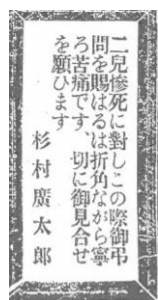


始めたことがわかります。文章の構成自体はオーソドックスで、文語体のものと変わりません。

⑦最後は新潟県の軍人、長岡外史です。長岡が師団長だった時、来日したオーストリアの軍人・レルヒからスキーを教わりました。そこに取材に行き、日本で初めてスキーのことを新聞に書いたのが楚人冠で、お互い非常に思い出深い人だったと思われまふ。この手紙では日付に注目してください。廿二日夜と書かれています。訃報を知りすぐに手紙を書いたという誠意を見せるアピールの一つとして、夜と付けたと考えられます。

◎次男・二郎、三男・時雄のお悔やみの手紙

楚人冠は大正 12 年に起こった関東大震災で、神田今川小路の長谷川病院に入院していた次男・二郎と三男・時雄を一度に亡くします。この際、日本人からのお悔やみの手紙は確認できる限り 1 通もありません。実は、楚人冠は 2 人の死がショックのあまり、新聞に死亡広告を出す際、「弔問一切ご遠慮します」と載せたのです。そのため、死亡広告欄を見ていない海外の知人達からの手紙だけが残されています。



←楚人冠が出した大正 12 年 9 月 17 日の朝日新聞死亡広告。20 日にも同様のものを掲載。「二兒惨死に對しこの際ご弔問を賜はるは折角ながら寧ろ苦痛です。切に御見合せを願ひます 杉村廣太郎」とある

1.イギリスの新聞経営者、ジェフリー・ハームスワースからの手紙です。この手紙はよほど印象に残ったのか、楚人冠が自分で訳したものが残っています。手紙にはキリスト教的な言い回しもありつつ、お地蔵様のお話をいれるなど、仏教徒である楚人冠に配慮したお悔やみ文となっています。この手紙を書いた時、ハームスワースは弱冠 19 歳でした。その若さでこのような手紙を書けることに驚きますが、彼は新聞経営者の一族に生まれ、高校卒業後、世界一周の旅に出ます。彼の伯父(デイリー・メール社長、ノースクリフ子爵)と楚人冠がイギリスで仲良くなったことが縁で来日し、楚人冠とは震災の 3 週間前に会ったばかりでした。幼いころから経営者として育てられ、他国の宗教などの教養も持ち合わせていた彼だからこ

そ、この文章が書けたのでしょ。う。

2.G.R.B.デビスからの手紙には、兄が弟を助けようと、弟の病室までやってきて亡くなったことについても触れられています。

デビスを知る人が読めば、「彼らしいな」と思うような手紙です。彼は楚人冠の『大英遊記』にも登場します。市民図書館にあるので、興味がある方はぜひ読んでみてください。

3.最後はアメリカの新聞学者ウォルター・ウィリアムズからの手紙です。「(神の) 配剤」などのフレーズから、キリスト教的な宗教観のもと書かれた手紙であることがわかります。

実物をご覧になりたい方は、ぜひ楚人冠記念館にご来館ください！ご自身の目で見ていただくことで、新たな発見があるかもしれません(^^)

連絡事項

- ・我孫子の景観を育てる会の会長が、吉澤さんから中塚さんになり、ご挨拶をいただきました。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします！

- ・「我孫子アートな散歩市」は9日に終了です。撤収なども 10 日までには終了しますので、何かお気づきの点等ありましたら、文化・スポーツ課までご連絡ください。

- ・今年も7月 12 日(金)に内覧会を開催します。杉村楚人冠記念館では、大河ドラマでも話題の「嘉納治五郎と手賀沼一幻の東京オリンピックをめぐる」と題した企画展について、白樺文学館では常設展「白樺派と我孫子」(手紙を中心に)についてご説明させていただきます。ご都合のつく方は、当日直接現地へお越しください。

- ・前回の月例会でお渡しした名簿について、お渡ししているものには市が把握している情報を掲載しています。このうち、皆さんにお知らせしていない情報には○、一覽に掲載したくない情報には×を記入し、文化・スポーツ課まで郵送・ファクス・持参のいずれかの方法でお知らせください。

※個人情報のため、シフト表のボックスには入れないようお願ひします。

次回は・・・

令和元年 7 月 1 日(月) 午前 9 時 30 分

から旧村川別荘新館にて月例会を行います。市制施行日の開催となります(^) どうぞよろしくお願ひします！